

【2014 年東北応援ツアー宮城県コースに参加して思う。】

S 5 1 年理工学部卒業東山哲也（福岡県在住）

福岡県在住の S 5 1 年理工学部電気工学科卒業の東山哲也と申します。
今回東日本大震災後 3 年 7 カ月経過した東北宮城県の被災地視察ツアーに参加
させていただきました。行く前から 3 年 7 カ月も経過しているのに今更何を見
に行くのか？と周囲から言われる位震災地は九州から遠く離れて、被災地の情
報も最近では入ってこないのが現実でした。でも、行ってみるとその現実にあ
ただただ驚かされることばかりでした。震源地に一番近い女川町ではまず地震と
津波の規模の大きさは街中だったと思われる場所に残されている横転した建物
の残骸が物語っていました。震災時約 1 万人居た人口のうち約 8 0 0 人、実に
8 %の方が亡くなられたそうです。4 4 0 0 軒の民家のうち全壊半壊を合わせ
ると 7 0 %以上の住居が被害を受け、いまでも復興を待ち続け約半数の方が仮
設住宅に住んでおられるとのことでした。大半の住民が豊かな三陸の海の幸を
生活の糧にしているこの漁村で、自分の親兄弟わが子をこの海に命を奪われる
ことの辛さは言葉では言い表せないものだったと思われます。この人達の心に
受けた傷は消え去ることは難しいと感じました。今、女川町ではこの苦難を乗
り越え整備事業が進められています。何台ものダンプカーが山と市街地とを往
復して嵩上げの作業を進めていました。整備事業に後 4 ~ 5 年かかるとのこと
でしたが、きっと安心安全で快適な地震に強い女川町に生まれ変わると期待し
ています。期待の念をもって見守っていくと同時に進化した女川町に再度行っ
てみたいと思いました。最後にお世話になった宮城県校友会の方々スタッフ
の方々に深くお礼申し上げたいと思います。本当にありがとう御座いました。

以上